最優秀賞・文部科学大臣賞

僕の決断　五城目町への移住と夢へのエネルギー

秋田県五城目町立五城目第一中学校
１年　石塚　隼仁

僕は、「わたしのエネルギー」というテーマを見た時、自分のエネルギーが全く出てこなくて、ずっと寝ていることしかできなかった小学５年生の時のことを思い出しました。その時は学校に行きたくても行けない日々が続いていました。さらに体力が落ちてしまったのか走り続けることができなくなり、大好きだったサッカークラブに通うこともできなくなってしまいました。お母さんはとても心配をして小児科や漢方薬を出してくれる病院、カウンセリングに連れて行ってくれましたが、目に見えてよくなるということはなく、自分のエネルギーが出てこないことに、僕は強い不安を感じていました。

どんな治療をしても僕のエネルギーが出てこないので、原因はもしかしてお父さんなのかもしれないと僕は思い始めました。その頃、僕のお父さんは、強度の精神病にかかっていました。長い時間をかけて、そう状態とうつ状態を繰り返していて、だんだんとその波は大きくなり、この頃は強力な怒りのエネルギーを発することがありました。お父さんのマイナスのエネルギーを浴びた時、頭やお腹が痛くて、とてもつらかったことを覚えています。そうこうするうちに、お父さんは突然うつ状態になり、そう状態とはまた別の大きなマイナスのエネルギーが出てくると、今度はその時わずかに残っている僕のエネルギーすらも吸い取られるような感覚になっていました。

お母さんは、いくら薬を飲んでもカウンセリングを受けても良くならない僕を見て、どうしたら僕がエネルギーを回復できるのか考え、お母さんの故郷の自然や人の違うエネルギーに触れさせるのはどうかと思っていたそうです。そこで、たまたま秋田県五城目町で始まった「教育留学」という現地の小学校に転校せず、お試しで通える制度を教えてもらいました。お母さんは昔に一度五城目町に行ったことがあり、とてもいいところだったよと言っていたので、僕も五城目町に連れて行ってもらうことにしました。五城目町に来て最初に感じたのは、あちこちで明るいエネルギーに触れたことです。見ず知らずの僕にもいろいろな人があいさつをしてくれたり、時には畑で採れた野菜をくれたりもしました。五城目町全体からプラスのエネルギーを浴びるにつれて、少しずつ朝起きられたり、友達ができて楽しい時間が過ごせるようになったり、だんだんと自分のエネルギーが回復していることに気が付きました。教育留学が終わる頃には、僕はまた元のように元気なエネルギーにあふれた生活を五城目町で

なら取り戻せるかもしれないと強く思うようになりました。それから、僕はお母さんに五城目町に引っ越して暮らしたいと頼み込み、教育留学から１カ月半後に五城目町に移住してきました。

五城目町に住み始めてから、今度は僕は町の人として暮らしてみると、五城目町にはエネルギーを巡らすホットスポットのような場所がたくさんありました。その中で、町のいろいろな人が集いお茶をしている「町のリビング」を運営している人がいました。漆畑先生と呼ばれているこの人は医者でもあるので、少し興味がわいて話を聞いてみたことがあります。すると、漆畑先生は、単なる医者ではなく、総合診療医であることが分かりました。総合診療医とは、その人の家庭や住んでいる環境までも診て治療する医者のことです。しかも驚いたのは、漆畑先生に会った時、自分のマイナスのエネルギーをどんどん吸い取ってくれて楽にしてくれるような感覚がありました。一方で心配になったのは、漆畑先生自身にマイナスのエネルギーがたまらないのかということでした。しかし、漆畑先生はいつも元気なので、きっとマイナスのエネルギーをどこかで上手に排出しているような気がします。僕から見ると、総合診療医は地域のプラスのエネルギーを増やして、マイナスのエネルギーを減らしてくれる医者で、つまり病気だけでなく、生きるエネルギーを回復させてくれる医者だと思います。僕は、五城目町の人たちや漆畑先生のおかげで、自分のエネルギーが回復し、今は学校生活や部活動にも打ち込めるようになりました。

これまでの僕の体験から、将来は自分のようにエネルギーがなくなっている人を手助けする総合診療医になりたいという夢ができました。五城目町に来る前の自分はエネルギーが全くなかったけれど、今は多くの人たちの助けを借りて、自分の夢へと進むエネルギーであふれ、楽しく生活ができるようになってきました。

そして、まだ今の体調では無理だけど、お父さんのマイナスのエネルギーに負けない心と身体になり、僕が総合診療医になったらお父さんの病気を少しでも良い方向に進めて、また笑って会えるようになりたいと思っています。